

新得町で十三日から三日間開かれた空想の森映画祭。一九九六年の一回目以来、十二年ぶりに会場を訪れた。ドキ

ュメンタリー映画の祭典は当時珍しく、上映された作品で社会のあり方を考えさせられ、ライブなどの催しでは心が浮き立った。

来場者とスタッフが気軽に交流し、ともに映画祭をつくり上げていく雰囲気は、以前と変わりなかった。夜はたき火を囲んで酒をくみ交わし、初めて会った者同士が打ち解けて話を弾ませた。

記者と同じく、一回目に観客として参加していた帯広市在住の映画監督田代陽子さんは、映画祭の雰囲気に魅了され、その思いをドキュメンタリー映画「空想の森」へと昇華させた。新得で農業を営む人々を描いた作品が問うものは、本当の豊かさとは何か―だ。

会場には常時、何とも気持ちいい空気が流れていた。取材の合間、身を浸らせながら、この映画祭が続いている豊かさを実感した。

豊かさ感じた映画祭



新得支局 佐藤 元彦